

2月19日（金）第38回大阪府対策本部会議 朝野座長の発言概要

<今後の感染対策全般について>

- 変異株であっても対策は全く変わらない。マスクや三密回避が基本であり、それ以上でもそれ以下でもない。

新型コロナウイルス感染症は「社会の生活習慣病」だと考える。「社会の生活習慣病」は予防ができ、生活習慣は変えていけるもの。感染が起こらない社会生活を組み立てていくことが必要。

今後も変異株は起こりうるものであるが、感染対策は一定である。

感染の流行が起こるのはウイルスそのものの動きというより、人の行動によって大きくも小さくもなるものであるということを理解したうえで、どのように新しい生活を送り、ワクチン効果を利用するかが重要で、変異株だからどうこうではなく、基本的感染対策をしっかり根付かせていくことの方が重要。

<マスク会食について>

- マスク会食において、（食べる際にだけ顎にマスクを上下させる手法は）表面が汚染されている可能性があるため、マスクの表面を触ることはお勧めしない。
ただし、手が汚染されていることを意識して箸で食べたり、手をアルコール消毒すれば問題なく、表面を触った手を目や鼻、口に持っていきことにリスクがある。
- 自分が感染している場合、マスクで口を覆うことにより、周囲の感染リスクが少なくなることから、相手を守るという意味で有効。
- （飲食店に新しいマスクを準備してもらうことについて）有効な策だが、マスク会食を義務化すると、マスク会食していない客を注意する従業員のメンタルも考えていただきたい。やってくれる人にそうすることは非常に有効。
感染研の報告のとおり、1人が感染していると、6～7人でテーブルを囲むと8割は感染すると言われているので、感染している人が会話時にマスクしていると周囲に移さないことから有効。あごにマスクをずらして飲食する手法も、人に移さないという意味で有効。
- （あごにマスクを上下させる手法は）マスクの表面を触ることで自分にはリスクがあるが、人に移さない、人を守るためのマナーという考え方を普及させることは適切。自分を守るため、手を洗うなどすればもっと良い。